令和6年度第3回阪南市子ども・子育て会議議事録

●開催日時

令和6年10月22日(火)午後7時00分～8時30分

●開催場所

阪南市役所 全員協議会室

●出席者

【委員】

卜田会長、三輪副会長、大谷委員、新田委員、佐藤委員、亀岡委員、城戸委員、川端委員、車谷委員、田中委員、谷委員、奥野委員、宍道委員

【事務局】

山中こども未来部長、丹野生涯学習部副理事、岩本こども政策課長、工藤こども支援課長、石原学校教育課長、楠本こども政策課参事、須田こども政策課長代理、鈴木学校教育課長代理(併)こども政策課長代理、植松こども政策課主幹、植田こども支援課主幹、油谷こども政策課総括主事
ジェイエムシー株式会社(野田・千葉)

●傍聴者:なし

●次第

1. 開会

2. 議題

- (1) 特定教育・保育施設における利用定員の設定について(資料1)
- (2) 第3期阪南市子ども・子育て支援事業計画における子育て支援事業に係る確保方策(案)について(資料2)
- (3) 第3期阪南市子ども・子育て支援事業計画(骨子案)について(資料3・4)
- (4) その他(当日資料)

3. 閉会

次第1 開会 事務局

皆様、こんばんは。ただ今より、令和6年度第3回阪南市子ども・子育て会議を開会いたします。本日は、お忙しい中、また、夜分にもかかわらず、ご出席いただき、誠にありがとうございます。本日、司会を務めます、こども政策課の岩本です。よろしくお願いいたします。

本日の事務局をご紹介します。こども未来部長の山中です。生涯学習部副理事の丹野です。こども支援課長の工藤です。学校教育課長の石原です。こども政策課参事の楠本です。こども政策課長代理の須田です。学校教育課長代理とこども政策課長代理を併任しております鈴木です。こども政策課主幹の植松です。こども支援課主幹の植田です。こども政策課総括主事の油谷です。最後に、私、こども政策課長の岩本です。どうぞよろしくお願いいたします。

また、本日の会議も、第3期阪南市子ども・子育て支援事業計画の策定にお手伝いをさせていただいておりますジェイエムシー株式会社の方にご出席いただいておりますので、ご了承ください。

次に、本日の出欠状況についてご報告します。全18名の委員のうち、現在13名の委員が出席されておりますので、阪南市子ども・子育て会議条例第6条第2項に基づく定足数に達していることをご報告いたします。

また、本市では、「会議の公開に関する指針」に基づき、原則、会議を公開することとしておりますが、本日、傍聴される方はおられません。

なお、本日の議事録につきましては、事務局が要旨をまとめ、各委員にご確認いただいた後、本市の情報公開コーナーで公開するとともに、市のウェブサイトにも掲載させていただきます。議事録作成のため、会議の内容を録音させていただいておりますので、あらかじめご了承ください。

続きまして、資料の確認をお願いいたします。まず、事前配布させていただきました会議次第、資料1、特定教育・保育施設における利用定員の設定について、資料2、第3期阪南市子ども・子育て支援事業計画における子育て支援事業に係る確保方策（案）、資料3、第3期阪南市子ども・子育て支援事業計画（骨子案）、資料4、第3期阪南市子ども・子育て支援事業計画（骨

子案) (概要)、参考資料、令和6年度第3回阪南市子ども・子育て会議資料に関する委員からの質問等一覧です。このうち、次第につきましては、差し替えがございますので、本日改めて机の上に置かせていただいております。

また、本日の配布資料といたしまして、委員名簿、当日資料、阪南市における就学前の教育・保育・子育て支援のあり方について(答申)へのご意見等についてでございます。過不足等がございましたら、事務局までお願いします。それでは、ここからの議事進行につきましては、阪南市子ども・子育て会議条例第6条第1項の規定に基づき、ト田会長にお願いしたいと思います。ト田会長よろしくお願いたします。

次第2 議題(1) 特定教育・保育施設における利用定員の設定について
議題(2) 第3期阪南市子ども・子育て支援事業計画における子育て支援事業に係る確保方策(案)について

会 長 改めまして、こんばんは。ト田でございます。どうぞよろしく
お願いします。

本日は、次第に記載されておりますとおり、「その他」も含め
ますと全部で4つの議題を予定しております。通常であれば、
議題ごとに事務局からご説明いただくところですが、本日の議
題のうち、1つ目と2つ目の議題については、かなり関連性の
深いものとなっています。そのため、本日は、議題1と議題2を
併せてご議論いただく予定としておりますので、よろしくお願
いいたします。

それでは、議題1「特定教育・保育施設における利用定員の設
定について」、並びに、議題2「第3期阪南市子ども・子育て支
援事業計画における子育て支援事業に係る確保方策(案)につ
いて」、事務局から説明をお願いします。

事 務 局 <資料1・2について説明>

会 長 ありがとうございます。非常に丁寧にご説明いただきました。
議題1は認定こども園4園の利用定員を引き下げることに
ついて、議題2は前回の会議で決定した量の見込みに対する確保
方策が資料2に書かれている数字で問題ないかということ
です。両議題についての質疑についてはまとめて行いますが、決
議については別々に取らせていただこうと思います。

ここまでの事務局からの説明について、他にご質問等はござ
いますか。

委 員 利用定員の変更について、年度途中からの0歳児の保育ニー
ズに対応できるのかが気になりますが、事務局の説明によると、
3号認定の0歳児は28人の量の見込みに対して、市内の保育
所・認定こども園で49人まで対応できるとのことでした。

保育士不足の状況がある中ですが、きちんと保育士を確保し、
受入体制を整えていただくようお願いします。

会長 ありがとうございます。

保育士不足はかなり深刻な状態にあると思います。私も保育者養成校に所属していますので、実態はよく知っていますが、最近、18歳未満の人口が減少していることに加え、教育・保育関連の道を目指す人が減ってきています。

保育士等の処遇改善などはどんどん進んではいますが、全国的に、教育・保育関連の仕事には、ブラックなイメージが広がってしまっていることが原因かと捉えています。

このことについて、ご意見等はございますか。

委員 当法人の運営するアルン西鳥取夢学舎と飛鳥ゆめ学舎では、毎年、多くの皆様が入園を希望されます。

しかしながら、先ほど、事務局や会長から説明がありましたように、保育士のなり手が減少し、想定を下回る採用しかできていないことから、希望者全員を受け入れることはできません。

国の配置基準を無視して受け入れることは、施設の安全面や保育の質の低下など、様々なリスクを追うこととなりますので、やむを得ず、入園者を制限している状況にあります。

先日、大学等に採用試験の案内をお願いしましたが、最近では、学生1人につき7～8園の求人があるとのことで、なかなか思うような採用には至っていない状況です。

会長 今、ご意見をいただきましたとおり、保育者を目指す学生にとっては、就職先がかなり選べる状態になっています。

国でも様々な取り組みをしていますが、実態としては、保育士の確保はなかなか難しいというのが本音だと思います。

他にはございませんか。

(意見等なし)

それでは、議題1、議題2とも審議案件となっておりますので、決議を取らせていただきますが、冒頭、ご説明いたしましたとおり、決議については、議題ごとに取らせていただこうと思います。

まず、議題1につきましては、皆様のご意見等を踏まえ、認定こども園4園の利用定員の引き下げについては異議はないものの、保育士の確保策については十分検討いただきたいと意見を加えたく思います。

このことについて、承認いただける方は挙手をお願いします。

(全員挙手)

ありがとうございます。

本日の出席委員の全員が挙手をしていると認められますので、阪南市子ども・子育て会議条例第6条第3項の規定に基づき、議題1「特定教育・保育施設における利用定員の設定について」は、このまま進めていただく代わりに、保育士の確保策を十分に検討いただきたいということといたします。

続いて、議題2についてです。

こちらについて、事務局の提案どおりに確保方策を設定してもよいという方は、挙手をお願いします。

(全員挙手)

ありがとうございます。

本日の出席委員の全員が挙手をしていると認められますので、阪南市子ども・子育て会議条例第6条第3項の規定に基づき、議題2「第3期阪南市子ども・子育て支援事業計画における子育て支援事業に係る確保方策(案)について」は、事務局の提案どおりに確保方策を設定することについて、承認したものとします。

次第2 議題(3) 第3期阪南市子ども・子育て支援事業計画(骨子案)について

会 長 続きます。議題3「第3期阪南市子ども・子育て支援事業計画(骨子案)について」事務局から、説明をお願いします。

事 務 局 <資料3・4について説明>

会 長 本日の会議で骨子を確定し、次回の会議で素案をお示しいただけるとのことでした。

事務局からの説明にもありましたとおり、第3期計画は、新しい計画というよりは、第2期計画の後を継ぐ計画であると思います。

そのため、第2期計画から根本的に変更することは予定していないとのことですが、表現で気になることがあればお知らせください。

ひとまず先に、事務局から確認のありました2点を決めたいと思います。1点目の「子どもの利益を最優先に考えた政策」という表現について、「子どもの最善の利益を第一に考えた政策」にするかですが、私個人としては、事務局から提案がありましたとおり、「子ども」の「子」もひらがなにした上で、ご意見のとおり、変更してもよいのではないかと思います。皆様いかがでしょうか。

委 員 「子どもの最善の利益」という文言は、意味だけではなく、この言葉に込められた理念が大事だと思うので、私は賛成です。

「こども」の表記に関しては、「こども」・「子ども」・「子供」の3種類がありますが、こども基本法、こども大綱ともに平仮名表記のため、平仮名で良いように思います。

会 長 「こども」の表記については、これまで、いろんな議論がありましたが、ここ数年は、平仮名表記が一般的になってきています。賛同のご意見がありましたので、平仮名で「こども」と表記した上で、「こどもの最善の利益を第一に考えた政策」に変更することよろしいでしょうか。

(意見なし)

では、1点目の確認事項は、「こどもの最善の利益を第一に考えた政策」といたします。

続いて2点目、こどもの貧困の表記について、「こどもの貧困の解消」にするか、「こどもの貧困の解消に向けた対策」にするか、「こどもの貧困対策」にするかというところです。

こちらは好みの分かれるところかと思いますが一番シンプルなのは、「こどもの貧困の解消」だと思うのですが、いかがでしょうか。

(意見なし)

では、こちらについては、「こどもの貧困の解消」といたします。

他の部分について、何かご意見等ございませんか。

委員

現在、第3期阪南市子ども・子育て支援事業計画については、令和7年3月までに策定する予定ですが、子どもの権利に関する条例については、パブリックコメント終了後、市議会に上程される予定と聞いています。

議会で議決されますと、第3期阪南市子ども・子育て支援事業計画の策定期と重なると思いますので、計画と条例は別々に考えることは難しいことと思います。

子どもの権利に関する条例の策定の動向が不明ではありますが、条例の理念は、第3期阪南市子ども・子育て支援事業計画に反映されるべきものと考えています。

一方で、条例が制定された場合、条例に基づく計画が作られるのか、それとも、第3期阪南市子ども・子育て支援事業計画の中に含まれるのか、どのようにお考えでしょうか。

会長

ありがとうございます。条例の策定に関する見通しをお知らせください。

事務局

ご意見のとおり、子どもの権利に関する条例については、パブリックコメントが終了しました。

一般的には、パブリックコメントの終了後は市議会に上程し、審議されることとなりますが、事務局としては、どのタイミングで市議会に上程されるのかを把握しておりません。

最速では、令和6年12月に市議会が開催されることになろうかと思いますが、条例の運用や進捗管理、計画化などの細部については、担当課である人権推進課が決定していくことになります。

現時点において、人権推進課からは、阪南市子ども・子育て会議での議論や第3期阪南市子ども・子育て支援事業計画への掲載などの打診はありません。

また、そもそも、子どもの権利に関する条例に基づく何らかの計画を作るといった話も把握しておりません。

現在の第3期阪南市子ども・子育て支援事業計画の策定スケジュールでは、条例化された子どもの権利に関する条例の具体的な内容までは反映できない可能性が高いと考えており、現行の第2期阪南市子ども・子育て支援事業計画における子どもの権利条約と同等の扱いになろうかと思えます。

会長

タイミングの問題があつて難しいというのが正直なところかと思えます。

他の自治体では、条例と計画を並行して進めた際に、当初は計画に条例を反映させようとしたものの、最終的には、反映できなかった例もあるそうです。

委員

阪南市の条例は、検討されている段階にありますが、こども基本法をはじめ、横断的に子どものことを考えていく流れにあると思えますので、担当課任せではなく、うまく連携してもらいたいです。

会長

ありがとうございます。

例えば、条例の担当課である人権推進課に、阪南市子ども・子育て会議としての意向を伝えることは可能でしょうか。

事務局

もちろん可能です。

しかしながら、条例の中には、条例が施行されてから具体的なルールを作るものもありますので、条例ができた瞬間に具体的なルールまで決まっているとは限りません。

また、少なくとも、阪南市子ども・子育て会議は、これまで年に1回以上は開催してきておりますので、必要に応じて検討することも可能です。

会長

阪南市の子どもの権利に関する条例は、制定時点では、理念などの大枠だけで、取組の内容までは決まっていない可能性もあるとのことでした。

現実的には、第3期阪南市子ども・子育て支援事業計画の策定時点では、条例が存在するというのみを見える化しておき、年度が経つに連れて、反映できる具体的な取組があれば、計画に落とし込んでいくことになろうかと思えます。

ひとまず、阪南市子ども・子育て会議としましては、委員の意向を事務局から人権推進課に伝えていただくようお願いするということがよろしいでしょうか。

(意見なし)

それでは、よろしく願いいたします。

他はいかがでしょうか。

次第2 議題(4) その他

会 長	それでは、議題4「その他」に移ります。当日資料について、事務局から説明をお願いします。
事 務 局	<当日資料について説明>
会 長	委員の皆様、ご協力いただき、ありがとうございました。
多様な意見のご提出があったと報告を聞いておりますが、これらの意見に対して、何かを決定するものではないと思いますので、本日は議論する予定はありません。
今後、事務局において、適切に取り扱ってくださいますようお願いいたします。
多様な意見がある中で、特に重要なポイントについては、市としても重視して議論を進めていただきたく思うのですが、ご質問等はございますか。
委 員	この会議では議論はしないということですが、提出された色々な意見について、子育て拠点整備特別委員会などで報告されるのでしょうか。
事 務 局	現在、そういった予定はありません。
今後、市として検討を深める際の参考といたします。
会 長	多様な意見が提出されたものと思います。
運営面はもちろん、合理性や集団で育つ力に関しても様々な角度から検討が必要になることと思います。
やはり、公立幼稚園は必要であるという意見やその理由についての意見もありますが、この部分は本会議で議論すべきポイントではないように思います。
意見をいただくことが目的ではなく、提出された意見を基に、市として議論を深めていくことが重要だと思います。
公立幼稚園のあり方は、日本全国でも相当議論されており、難しい問題だと思いますが、様々な角度から十分議論していただきたいと思います。

事務局

保護者の選択肢として公立幼稚園を残してほしいという意見がある一方で、現状は1クラス4人しかいない園があり、子どもの育ちの場の機能を果たしておらず、育つ力が弱くなるおそれがあるという意見も把握できました。

本市が一番気にしているのは、「子どもの育ちの保障」です。平成23年度に文部科学省が委託した幼児集団の形成過程と協同性の育ちに関する研究の調査結果では、一人一人の幼児への個別の対応が求められる個に応じた援助とともに、集団の形成過程を大切に、協同性の育ちを育むため、幼稚園で望ましいと考える1学級の人数は、3歳児は20人前後、4、5歳児は21人以上30人ぐらいとされています。

また、他の自治体でも同様に、幼稚園の園児数の減少が進んでおり、適正規模を議論されている状況です。

皆様から頂戴したご意見については、こうした内容も踏まえながら、今後検討を進める際の参考としてまいります。

必要に応じて、本会議の委員の皆様にもご協力をお願いすることもあるかもしれませんが、本案件については、皆様への負担がかなり大きいと考えていますので、市として責任を持って取り扱っていきたいと考えています。

「こどもの最善の利益」を第一に考えてまいりたいと思っています。

会長

まさしく、「こどもの最善の利益」がポイントになると思います。

ただ、その中で何を基準にして最善であるのかということには、かなり多角的な議論が必要になると思います。定員に関する考え方や適正規模に対する考え方も1つの要因ではありますが、地域性や利便性などといった視点も必要かと思います。

先ほど、説明された文部科学省の研究は、現場の先生目線のものであったと認識しています。一定の根拠であるとも言えますが、子どもが少なくてもやりようはあるという意見も存在します。

財政面の問題もありますので、様々な要因について、慎重に議論していただきたいと思います。

他にはございませんか。

委員	<p>子どもの集団のあり方も大事ですが、子どもが安心して成長するためには、保護者の安心、安全もとても大切だと思います。</p> <p>核家族化が進行している昨今では、「子育て」を学ぶ・話す・真似る機会が少なく、手助けしてくれる幼稚園の先生や保育所の先生が重要な役割を果たしていますので、そうした視点も考慮していただきたいです。</p>
委員	<p>私は、主任児童委員として幼稚園の親子登園に携わっていますが、最近、公立幼稚園に来られる子どもが本当に少なくなってきました。</p> <p>一方で、支援が必要な方や通われている方からは、「少人数でよかった」という声もよく聞きます。</p> <p>人数が減ってきたら統廃合という流れになりがちだと思いますが、そうすると、地域との関わりが薄れてしまい、学校との連携も難しくなる側面もあろうかと思しますので、多角的に議論していただきますようお願いいたします。</p>
委員	<p>現場の職員としては、子どもの発達段階や幼児理解などを大切に取り組んでいます。</p> <p>単に園児数が減少しているということではなく、公立幼稚園がこれまで大切に実践してきた、子どもたちが安心して学び、生活していく場というものは、まさに、「こどもまんなか社会」に通じていると感じています。</p> <p>幼児期に地域の良さや大切さに気付き、自ら地域に関わっていかうという素地を育むこともあります。</p> <p>公立幼稚園は、そうした多様な体験ができる場でもあるということをご理解ください。</p>
会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>本当に難しい案件だと思います。1つのものさしだけでは測れないことは事実だと思いますので、今後、市として慎重にご議論いただき、必要に応じて本会議にも共有いただきますようお願いいたします。</p> <p>他にはございませんか。</p>

事務局

事務連絡です。今年度の会議につきましては、あと2回を予定しており、次回は12月頃を実施予定としています。

後日改めて日程に関するご連絡をさせていただきますが、会議の開催日まであまり期間がありませんので、場合によっては事前の意見募集ができない可能性があります。あらかじめご了承ください。

次第3 閉会

会 長 | 本日の議題は、全て終了いたしましたので、会議を終了します。これ以降の進行は事務局にお願いします。

事 務 局 | 皆様、円滑な会議運営にご協力いただき、ありがとうございました。

これをもちまして、本日の会議を終了させていただきます。長時間にわたり、ご協力いただき、誠にありがとうございました。